

小児がん拠点病院 現況報告書

令和3年9月1日時点について記載

チェック欄に
未入力なし

病院名	東京都立小児総合医療センター												
よみがな	とうきょうとりつしょうにそうごういりょうせんたー										✓		
郵便番号	〒	183-8561									✓		
住所	東京都	府中市武蔵台2丁目8番地29号									✓		
よみがな		ふちゅうしむさしだいにちょうめはちばんちにじゅうきゆうごう									✓		
電話(代表)	042-300-5111										✓		
FAX(代表)	042-312-8162												
e-mail(代表)	S9000103@section.metro.tokyo.jp												
HPアドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/index.html												
診療科	開設診療科数	35									✓		
	診療科名(具体的に記載)	小児科、心療内科、循環器内科、内分泌・代謝科、血液腫瘍内科、血液腫瘍外科、腎臓内科、透析内科、神経内科、呼吸器内科、呼吸器外科、感染症内科、消化器内科、アレルギー科、小児外科、心臓血管外科、泌尿器科、整形外科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、小児歯科、矯正歯科、臓器移植外科、放射線科、臨床検査科、放射線科、麻酔科、児童・思春期精神科、救急科、新生児内科、リハビリテーション科、病理診断科									✓		
外来診療受付時間	曜日	月～金	時間	8	時	00	分	～	16	時	00	分	✓
	曜日	土	時間	8	時	00	分	～	12	時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
外来診療時間	曜日	月～金	時間	9	時	00	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日	土	時間	9	時	00	分	～	12	時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
休診日	日曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)										✓		
初診時の予約	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	561	床									✓	

診療実績 (令和2年1月1日～12月31日)

年間入院患者延べ数 ※1	129,168	人	✓
年間入院小児がん患者延べ数 ※1	745	人	✓
年間入院患者延べ数に占める小児がん患者の割合	0.6	%	
小児がん入院患者在院日数 ※2	19,568	日	✓
外来小児がん患者延べ数 ※3	4,603	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者実数 ※4	19	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者延べ数 ※5	3	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者延べ数 ※6	106	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関実数 ※7	89	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者延べ数 ※8	175	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関実数 ※7	86	機関	✓

※1 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者の総数(延べ数)を計上する。当該年に同一患者が2回入院した場合は2人と

※2 初診日や初発・再発に関わらず、当該年に入院した小児がん患者の入院患者数の延べ数で計上する。入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1日として計上する。

※3 診断時18歳以下を対象とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※4 診断時18歳以下を対象とし、総数(実数)を計上する。終末期の患者だけではなく、緩和ケアチームが検討した結果、診察・薬剤・リハビリなど診療行為の対象となった患者を含むが、カンファレンスのみを行い、実際の診療行為が行われていない患者は含まない。

※5 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、当該年に2回セカンドオピニオンを行った患者は、2人と計上する。

※6 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、フォローアップ目的の照会を含む。

※7 重複のない実数を計上する。

※8 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、紹介時には18歳を超えていても構わないが、がんに関連しない疾患での紹介(嚙歯に対する歯科診療など)は含めない。転院目的での紹介は含むが、同時期に複数病院へ同一内容で紹介した場合は1人と計上する(同時期に異なる内容で紹介または異なる時期に同一内容で紹介の場合は別で計上する)。

小児がんに関する専門外来の名称	血液・腫瘍科(含む「長期フォローアップ外来」、脳神経外科、眼科、外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科)	✓
-----------------	---	---

職員数	総数(事務職員を含む)	1,413	人	✓
		人数	うち常勤(※)	
医師		360	140	✓
歯科医師		4	2	✓
薬剤師		38	27	✓
保健師		0	0	✓
看護師		708	683	✓
准看護師		0	0	✓
理学療法士		5	3	✓
作業療法士		7	4	✓
視能訓練士		5	1	✓
言語聴覚士		7	2	✓

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

義肢装具士	0	0	✓
診療放射線技師	26	18	✓
臨床検査技師	33	20	✓
衛生検査技師	0	0	✓
臨床工学技士	10	10	✓
管理栄養士	12	7	✓
栄養士	0	0	✓
社会福祉士	7	2	✓
精神保健福祉士	10	8	✓
介護福祉士	0	0	✓
保育士	39	24	✓
その他の職種	142	58	✓
人数 うち常勤(※)			
日本小児血液・がん学会 専門医	3	3	✓
日本小児血液・がん学会 指導医	3	3	✓
日本小児血液・がん学会 暫定指導医	0	0	✓
日本小児血液・がん学会 認定外科医	1	1	✓
日本小児外科学会 専門医	8	8	✓
日本小児外科学会 指導医	5	5	✓
日本小児科学会小児科 専門医	114	74	✓
日本小児神経学会 小児神経専門医	6	2	✓
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	4	3	✓
日本病理学会 病理専門医	1	1	✓
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	0	0	✓
がん治療認定医機構 がん治療認定医	6	6	✓
日本放射線腫瘍学会・公益社団法人 日本医学放射線学会 共同 放射線治療専門医	1	1	✓
公益社団法人日本医学放射線学会 放射線診断専門医	7	3	✓
日本緩和医療学会 緩和医療専門医	0	0	✓
日本緩和医療学会 緩和医療認定医	0	0	✓
日本看護協会 がん看護専門看護師	0	0	✓
日本看護協会 小児看護専門看護師	4	4	✓
日本看護協会 地域看護専門看護師	0	0	✓
日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	1	1	✓
日本看護協会 緩和ケア認定看護師	1	1	✓
日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師	1	1	✓
日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師	0	0	✓
日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師	0	0	✓
日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師	1	1	✓
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	2	2	✓
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	0	0	✓
日本臨床細胞学会 細胞検査士	2	2	✓
日本医学放射線学会 医学物理士	1	1	✓
日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	2	2	✓
日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	4	4	✓
一般社団法人 日本病態栄養学会/ 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士	3	3	✓
一般社団法人日本人類遺伝学会 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー	1	1	✓
一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー	0	0	✓
チャイルドライフスペシャリスト	0	0	✓
ホスピタルプレイスペシャリスト	7	2	✓

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

1 診療体制

(1) 診療機能

① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供

ア	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	8	✓	○
	専門とするがんについて別紙1に記載すること。		別紙1		9		
イ	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等）によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている。カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。	A	はい	(はい／いいえ)	10	✓	○
	カンサーボードの開催回数（令和2年1月1日～12月31日）	-	12	回	11	✓	
ウ	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	12	✓	○
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	-	はい	(はい／いいえ)	13	✓	
エ	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	15	✓	○
オ	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	17	✓	○
カ	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。	B	はい	(はい／いいえ)	18	✓	
	がんの治療に際する妊娠性温存治療を施設で実施できる	-	いいえ	(はい／いいえ)	19		
キ	生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙2に記載すること。		別紙2		20		
	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	21	✓	○

② 薬物療法の提供体制

薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい	(はい/いいえ)	23	✓	○
---	---	----	----------	----	---	---

③ 緩和ケアの提供体制

ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	26	✓	○
	緩和ケアチームの組織・体制について別紙3に記載すること。		別紙3		27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	いいえ	(はい/いいえ)	29	✓	
	緩和ケア外来について別紙4に記載すること。		別紙4		30		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	31	✓	○
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数（令和2年1月1日～12月31日）	-	11	回	32	✓	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	33	✓	○
	情報提供の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）	-	ホームページに掲載、院内掲		34		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	35	✓	○
	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	36	✓	
カ	緩和ケア病棟について別紙5に記載すること。		別紙5		37		
					38		

④ 病棟連携・病診連携の協力体制

ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	39	✓	○
	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	41	✓	○
イ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス（拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。）を整備している。	B	いいえ	(はい/いいえ)	42	✓	
	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	43	✓	

⑤ セカンドオピニオンの提示体制

小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン（診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。）を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	45	✓	○
セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙6に記載すること。		別紙6		46		

⑥ その他

小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい/いいえ)	48	✓	
----------------------	---	----	----------	----	---	--

(2) 診療従事者

用語の定義：
専任：当該診療の実施担当で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。
専従：就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。
※専任の人数には、専従も含めて記載すること。

① 専門的な知識および技能を有する医師の配置

ア	放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	6	人	1人以上	52	✓	○
	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	3	人		53	✓	
	イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	13	人		54	✓	
イ	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	8	人	1人以上	55	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	8	人		56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	5	人		57	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	5	人		58	✓	
	ウ 緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	4	人	1人以上	59	✓	○
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	4	人		60	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人	1人以上	61	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人		62	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	5	人		63	✓	

	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	64	✓	
	受講率	-	40.0	%	65		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	4	人	66	✓	
	受講率	-	80.0	%	67		
小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。		-	35	人	68	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	18	人	69	✓	
	受講率	-	51.4	%	70		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	8	人	71	✓	
	受講率	-	22.9	%	72		
エ 病理診断に携わる医師の人数。		-	1	人	90	✓	
	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	1	人	91	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	1	人	92	✓	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置					93		
ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。		A	9	人	94	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	7	人	95	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数	A	9	人	96	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	7	人	97	✓	
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。		-	25	人	98	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	2	人	99	✓	○
ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。		-	2	人	100	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	2	人	101	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	1	人	102	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	3	人	103	✓	
エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。		B	2	人	104	✓	
オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。		B	7	人	105	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	7	人	106	✓	
小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環 境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援す る担当者的人数。		B	18	人	107	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	4	人	108	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する社会福祉士の人数	-	7	人	109	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等的人数	-	7	人	110	✓	
③ その他					111		
ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推 進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。		B	はい	(はい/いいえ)	112	✓	
拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動 実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手 術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、 紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等へ の参加実績等を参考とすること。		A	はい	(はい/いいえ)	113	✓	○
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。		-	はい	(はい/いいえ)	114	✓	
論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。		-	はい	(はい/いいえ)	115	✓	
(3) 医療施設					116		
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置					117		
ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。		A	はい	(はい/いいえ)	118	✓	○
イ 集中治療室を設置している。		A	はい	(はい/いいえ)	119	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特定集中治療室(ICU)の数	-	0	床	120	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特定集中治療室(PICU)の数	-	20	床	121	✓	
ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。		A	はい	(はい/いいえ)	122	✓	○
	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙7に記載すること。		別紙7		124		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(令和2年1月1日～12月31日)	-	1	回	125	✓	
② 敷地内禁煙等					126		
敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。		A	はい	(はい/いいえ)	127	✓	○
敷地内は全面禁煙である。		-	はい	(はい/いいえ)	128	✓	
(4) 診療実績					129		
① 小児がんについて年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A	はい	(はい/いいえ)	130	✓	○
② 固形腫瘍について年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とす る)。		A	はい	(はい/いいえ)	131	✓	○
③ 造血器腫瘍について年間(令和2年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とす る)。		A	はい	(はい/いいえ)	132	✓	○
診療実績等について別紙1および別紙8に記載すること。			別紙1・別紙8		133		
(5) その他					134		
① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。		A	はい	(はい/いいえ)	135	✓	○
特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。		-	はい	(はい/いいえ)	136	✓	
特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。		-	はい	(はい/いいえ)	137	✓	
② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。		A	はい	(はい/いいえ)	138	✓	○
公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。		-	はい	(はい/いいえ)	139	✓	
日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。		-	はい	(はい/いいえ)	140	✓	
③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及 び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。		A	はい	(はい/いいえ)	141	✓	○
上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。		-	はい	(はい/いいえ)	142	✓	
	配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	7	人	143	✓	○
	配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	11	人	144	✓	
2 研修の実施体制					145		
小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に 関する研修会等を毎年定期的に開催している。		A	はい	(はい/いいえ)	146	✓	○
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙9に記載すること。			別紙9		147		
3 情報の収集提供体制					148		
(1) 相談支援センター					149		

小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門（以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。）を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。		A	はい	（はい／いいえ）	150	✓	○
広報の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）		-	医療機関のwebサイトに掲載		151		
相談支援センターの体制について別紙10に記載すること。			別紙10		152		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙11に記載すること。			別紙11		154		
①「小児がん中央機関による研修について」（平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡）に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。		A	はい	（はい／いいえ）	155	✓	○
②患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。		A	はい	（はい／いいえ）	156	✓	○
③院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。		A	はい	（はい／いいえ）	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。		B	はい	（はい／いいえ）	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙12に記載すること。			別紙12		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。（相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。）					160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	161	✓	○
アの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	17	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	163	✓	○
イの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	1	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	165	✓	○
ウの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	2	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	167	✓	○
エの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	219	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	6	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	170	✓	○
オの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	184	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	172	✓	○
カの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	0	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。		A	はい	（はい／いいえ）	174	✓	○
キの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	0	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。		A	はい	（はい／いいえ）	176	✓	○
クの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	213	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。		A	はい	（はい／いいえ）	178	✓	○
ケの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	0	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することをやっている。		A	はい	（はい／いいえ）	180	✓	○
コの相談件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	73	件	181	✓	
(2) 院内がん登録							
① がん登録等の推進に関する法律（平成25年法律第111号）第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針（平成27年厚生労働省告示第470号）に即して院内がん登録を実施している。		A	はい	（はい／いいえ）	183	✓	○
② 院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。		A	はい	（はい／いいえ）	184	✓	○
③ 院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数		A	1	人 1人以上	185	✓	○
うち専従者の人数		-	0	人	186	✓	
配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。		A	はい	（はい／いいえ）	187	✓	○
④ 院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。		A	はい	（はい／いいえ）	188	✓	○
⑤ 適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。		-	はい	（はい／いいえ）	189	✓	
⑥ 院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。		-	はい	（はい／いいえ）	190	✓	
⑦ 院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。		B	はい	（はい／いいえ）	191	✓	
⑧ 院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要な情報を提供している。		A	はい	（はい／いいえ）	192	✓	○
(3) 診療実績、診療機能等の情報提供							
小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。		A	はい	（はい／いいえ）	194	✓	○
情報提供の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）		-	医療機関のwebサイトに掲載		195		
4 臨床研究に関すること							
他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。		A	はい	（はい／いいえ）	199	✓	○
(1) 治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法（平成29年法律第16号）に則った体制を整備している。		A	はい	（はい／いいえ）	200	✓	○
(2)-1 進行中の臨床試験（治験を除く。以下同じ。）の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。		A	はい	（はい／いいえ）	201	✓	○
広報の手段について、簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）		-	医療機関のwebサイトに掲載		202		
(2)-2 進行中の臨床試験以外的小児がんに関連する臨床研究（特にトランスレーショナルリサーチ）の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。		A	はい	（はい／いいえ）	203	✓	○
広報の手段について、簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）		-	医療機関のwebサイトに掲載		204		
(3) 参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。		B	はい	（はい／いいえ）	205	✓	
広報の手段について、簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）		-	医療機関のwebサイトに掲載		206		
(4) 臨床研究を支援する専門の部署を設置している。		B	はい	（はい／いいえ）	207	✓	
設置していない場合は設置の予定時期		-	年 月	（西暦XXXX年XX月）	208		
(5) 臨床研究コーディネーター（CRO）を配置している。		B	はい	（はい／いいえ）	210	✓	
臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数		-	8	人	211	✓	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙13に記載すること。			別紙13		212		
臨床研究の実施総件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	51	件	213	✓	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	20	件	214	✓	
治験の実施総件数（令和2年1月1日～12月31日）		-	1	件	215	✓	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備							

(1)	保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	217	☒	☐
	保育士の人数	-	39	人	218	☒	
	保育士のうち常勤の人数	-	24	人	219	☒	
(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	220	☒	☐
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい／いいえ)	221	☒	
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	222	☒	
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	いいえ	(はい／いいえ)	223	☒	
	高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	224	☒	
(3)	退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	225	☒	☐
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	227	☒	☐
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい／いいえ)	228	☒	
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)	229	☒	☐
	部屋数	-	12	部屋	230	☒	
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	いいえ	(はい／いいえ)	231	☒	
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙14に記載すること。		別紙14		232		
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	233	☒	☐
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい／いいえ)	234	☒	
6 PDCAサイクル							
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者と共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)	236	☒	☐
	把握・評価の方法、改善策等について別紙15に記載すること。		別紙15		237		
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	238	☒	☐
	地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載			239	
7 医療安全体制							
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	241	☒	☐
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	242	☒	☐
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい	(はい／いいえ)	243	☒	☐
(4)	当該施設で承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	244	☒	
	当該施設で承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				245		
	① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい	(はい／いいえ/-)	246	☒	☐
	② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい	(はい／いいえ/-)	247	☒	☐
	③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい	(はい／いいえ/-)	248	☒	☐
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	249	☒	☐
	医療安全体制について別紙16に記載すること。		別紙16		250		

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

病院名: 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在(実績は令和2年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数														各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、入力せずじホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)							
1	血液・腫瘍科	8	2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2	脳神経外科	6	6	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
3	診療放射線科	1	1	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4	内分泌・代謝科	9	0	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5																			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名				治療内容											
他の治療(1)				自家造血細胞タンドム移植併用大量化学療法				自家末梢血幹細胞を事前に採取し、自家造血細胞移植を併用した大量化学療法を4回繰り返す治療で、髄芽腫に対して実施しております。											
他の治療(2)				血管塞栓療法				髄膜腫など血流豊富な腫瘍に対して、血管塞栓を行い、その後安全に腫瘍の全摘出を行います。											
他の治療(3)				内分泌補充療法				内分泌学的な補充、体液管理を行い、化学療法を安全に実施する手助けをしております。											
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)				髄芽腫、びまん性内性橋グリアーマ、神経膠腫、複交又神経膠腫、脳胚細胞腫瘍(純型胚腫、絨毛がん、未分化奇形腫)、松果体腫瘍、脊髄腫瘍															

小児の眼・眼窩腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法												陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
								体外照射	IMRT												小線源治療	他の治療(1)	他の治療(2)			他の治療(3)	治療内容	治療実績	医師の専門分野
																								見出し	アドレス				
1 血液・腫瘍科	8	2	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	当該疾患に対する治療法を担当しております。最新の化学療法、治療についての情報も提供し、個々の患者さんにとって最適な治療法を提案いたします。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/ketsueki.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり									
2 眼科	1	1	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	他科と協力しながら治療を行っています。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/ganka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり									
3 診療放射線科	1	1	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行っています。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/housyasan.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり									
4 脳神経外科	6	6	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	眼窩の上は体腔鏡の手術でもあり、眼窩が必要な眼系内腫瘍の摘出手術は、脳神経外科が担当します。頭蓋内腫瘍の手術も担当いたします。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/nougeka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり									
5																													
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください							治療名							治療内容															
他の治療(1)																													
他の治療(2)																													
他の治療(3)																													
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)																													

小児悪性骨軟部腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術	化学療法	放射線療法												陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容		
								体外照射	小線源治療													他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野
								見出し	アドレス																				
1 血液・腫瘍科	8	2	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/ketsueki.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり								
2 整形外科	10	1	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/ganka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり								
3 診療放射線科	1	1	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行っています。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/housyasan.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり							
4 外科	12	12	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	筋骨原発の腫瘍、筋骨転移、仙尾部原発の奇形腫などに対する外科的切除を行っています。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/gaka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり							
5																													
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください							治療名					治療内容																	
他の治療(1)																													
他の治療(2)																													
他の治療(3)																													
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)																													

その他の小児固形腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数										各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記その他の治療法欄と合わせてください			※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)							他の治療(3)
見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野												
1 血液・腫瘍科	8	3	×	○	×	×	×	×	×	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/ketsuuki.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
2 外科	12	12	○	×	×	×	×	×	×	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/gaku.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3 泌尿器科	4	4	○	×	×	×	×	×	○	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/hinyouki.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
4 診療放射線科	1	1	×	×	○	○	×	×	×	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/houshasen.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり		
5 耳鼻いんこう科	4	0	○	×	×	×	×	×	×	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/jibinkou.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名					治療内容						
他の治療(1)					免疫療法					腎癌に対するインターフェロン治療						
他の治療(2)																
他の治療(3)																
治療実績のある疾患名 (※令和2年1月1日～12月31日)					神経芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、肺芽腫、ウィルス腫瘍、腎門細胞肉腫、肝細胞がん、耳下腺腫瘍											

小児血液腫瘍

○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ														
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、手入力せずホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 血液・腫瘍科	8	3	○	○	○	○	×	×	×			1. 治療コーディネイト、化学療法、あらゆるソースを用いた造血細胞移植を担当。JCOG (JPLSD)、TCOSG参加施設に所属し、がん治療に特長があります。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/ketsuuki.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
2 診療放射線科	1	1	×	×	×	×	○	○	×			あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行っています。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/houshasen.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
3 リハビリテーション科	2	2	×	×	×	×	×	×	×			がん患者さんの生活の質の向上を図るため、歩行訓練やリハビリテーションを行っています。歩行訓練やリハビリテーションを行うことで、歩行能力が向上し、生活の質が向上します。	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/shabun.html	掲載あり	掲載なし	掲載あり	
4 小児歯科	3	3	×	×	×	×	×	×	×	×			治療中に口内炎や歯肉の減少などのトラブルが起こることがあります。口内炎の痛みで食事や睡眠が不十分になつ	診療科のご案内	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/shounisaka.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
5																		
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください			治療名									治療内容						
他の治療(1)			血縁者間半合致移植									再発など予後不良と考えられる造血器腫瘍に対して、臨床試験として血縁者間半合致移植を行います。						
他の治療(2)																		
他の治療(3)																		
治療実績のある疾患名 ※(令和2年1月1日～12月31日)			B前駆細胞性急性リンパ性白血病、T細胞性急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、治療関連性白血病、非ホジキンリンパ腫、ランゲルハンス細胞組織球症、一過性骨髄異常増殖症															

生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名： 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和3年9月1日現在（実績は令和2年1月1日～12月31日）

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数（令和2年1月1日～12月31日）	0
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵、受精卵（胚）、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数（令和2年1月1日～12月31日）	1
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術（Onco-TESE）を行った患者の人数（令和2年1月1日～12月31日）	0

OK

■がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制について記載すること。

①相談に対応している部署（例：がん相談支援センター、化学療法室等）

相談支援センター、血液・腫瘍科

（複数回答可）

②がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数（令和2年1月1日～12月31日）

1

③紹介先施設名

聖マリアンナ医科大学

（複数回答可）

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。（他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること）

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙2を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／ノータブル／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

- 診断時における医師からの情報提示
 - ・小児がんの診断時には、家族に対して必ず妊孕性のリスク、妊孕性温存について説明しております。
 - ・また、AYA世代や判断可能な年齢であれば、本人に対しても診断後なるべく早期に上記の説明をしております。

- 妊孕性温存治療のための他院紹介
 - がんの治療に際して、妊孕性温存のための処置が必要な患者に対しては、適切なタイミングで、妊孕性温存治療ができる他施設へ紹介しております。

【紹介実績のある医療機関】

- ・聖マリアンナ医科大学病院
- ・東京慈恵会医科大学附属病院
- ・東京大学医療センター大森病院
- など

- 相談支援センターにおける情報提供
 - ・相談支援センターではAYA世代にあるがん患者・家族からの相談にも対応しており、住んでいる自治体に応じて使用できる支援制度等を御案内しています。（がん患者の生殖機能温存治療に対する助成制度など）
 - ・特に東京都の「AYA世代がん等患者相談支援事業」の一環として、他院の患者からの問い合わせにも対応でき、また妊孕性温存も含めた情報を各施設に対して配信することを目的とした、「AYA世代がん相談情報センター」を開設しました。（令和3年9月3日）

- リーフレット等における普及啓発
 - ・妊孕性の問題も含めた晩期合併症や長期フォローアップについては、当院が事務局を務める「東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会」（東京都の小児・AYA世代がん事業）においても積極的な普及啓発に努めており、相談支援センターの相談員等が御案内の際に使用するリーフレット等も作成しております。



長期フォローアップに関する患者・家族向けリーフレット（平成29年度作成）



AYA世代がん相談情報センター開設ポスター（平成3年9月3日開設）

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和3年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数：

19

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

OK

緩和ケアチームの名称		チームカモミール		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師1、2	常勤	1. 血液・腫瘍科、2. 心療内科	1. 「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(REACE)修了、小児科医のための緩和ケア教育プログラム(CLIC)受講、日本緩和医療学会会員
2	医師3、4	常勤	3. 在宅診療科、4. 新生児科	2. 「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(REACE)修了、小児科医のための緩和ケア教育プログラム(CLIC)受講、日本緩和医療学会会員
3	医師5、6	常勤	5. 総合診療科、6. 麻酔科	4. 小児科医のための緩和ケア教育プログラム(CLIC)受講
4	看護師1、2	常勤	がん看護	1. 日本緩和医療学会員、公益財団法人日本看護協会認定緩和ケア認定看護師、小児がん相談員
5	看護師3	常勤	看護管理	2. 公益財団法人日本看護協会認定がん性疼痛認定看護師
6	ソーシャルワーカー1	常勤	社会福祉	小児がん相談員
7	ソーシャルワーカー2、3、4	非常勤	社会福祉	小児がん相談員
8	臨床心理士1、2、3	常勤	心理	小児がん相談員
9	薬剤師	常勤		がん薬物療法認定薬剤師
10	事務1、2	常勤	庶務課企画担当	

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東京都立小児総合医療センター

時期・期間：令和3年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										いいえ	OK
2	緩和ケア外来の名称											
3	担当診療科名											
4	主な診療内容・特色											
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し									
			アドレス									
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										はい	OK
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	
	窓口の名称		子どもがん相談支援センター									
	電話	代表	042-312-8117	（内線）				直通				
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
	窓口の名称		医療連携室									
	電話	代表	042-312-8116	（内線）				直通				

緩和ケア病棟の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名：東京都立小児総合医療センター

時期・期間：令和3年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している					
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数		床			
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス				
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数（人） ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	（例） 医師	2	（例） 精神保健福祉士	1	

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス						
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス						
12	緩和ケア病棟の設備	例：家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム（食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある）、特殊入浴室									
13	訪問看護ケアの有無	例：自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など									

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名： 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和3年9月1日現在（実績は令和2年1月1日～12月31日）

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来について	アドレス	https://www.byoin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/gairai/secondopinion.html		
問い合わせ先の電話など	対応可能な疾患名	対応した患者数（実績）	担当する医師の情報			保険診療、または保険外診療である旨
掲載あり	掲載あり	掲載なし	医師名	診療科	専門分野	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。

※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄に未入力なし

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	×	×	
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	稀な腫瘍に関するセカンドオピニオンにも対応しております。
3人目						
4人目						
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	外科	○	○	×	×	腹部、胸部、体表の小児がん
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	
3人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	稀な腫瘍に関するセカンドオピニオンにも対応しております。
4人目	耳鼻いんこう科	○	○	×	×	
5人目	泌尿器科	○	○	×	×	腎尿路系腫瘍

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和2年1月1日～12月31日まで	2	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	造血細胞移植に関するセカンドオピニオンにも対応しております。
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	造血細胞移植に関するセカンドオピニオンにも対応しております。
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

下のチェック欄で「未入力あり」がないか確認してください

病院名：東京都立小児総合医療センター

時期・期間：令和3年9月1日現在

語り合うための場総件数：

2

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ /家族のみ /患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター	XXX-XXX-XXXX直通
1	菜の花の会	菜の花の会	あり	定期	月 1	小児がん、 AYA世代がん	参加可	患者・家族	新しい患者さんの家族の心配に対し、患者家族の視点で相談に乗っています。また、患者側の要望によって医師からの講演を行っています。	血液・腫瘍科	042-300-5111(代表) 内線5118
2	AYAキャンサーサバイ バーズミーティング	東京都立小児総合医療セ ンター	あり	不定期	年 2	AYA世代がん	参加可	患者のみ	令和元年度からAYA世代がん患者さん特有の問題に関する情報、ピアサポート提供を目的とした交流会を開催します。	庶務課企画担当	042-300-5111(代表)
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書室の名称	森のライブラリー					
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	森のライブラリー				
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/annai/library.html				
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他				
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌		
		0	0	0	0		
		貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可		
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機	
		設置なし		設置なし		設置なし	
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)		
		直通1	042-312-8158		直通2		
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア	2	人
				人	ボランティア	2	人
				人			人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）						

OK

未入力あり

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称	院内ラウンジ						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス						
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		0	0	0	0			
		貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可	貸し出し不可			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

診療実績等

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名:

東京都立小児総合医療センター

	年間新規症例数(※) (令和2年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (令和2年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	30	固形腫瘍合計	70
ALL	21	神経芽腫瘍群	4
AML	4	網膜芽腫	1
まれな白血病	0	腎腫瘍	1
MDS／MPDのうちCML	0	肝腫瘍	0
MDS／MPDのうちCMLを除く	0	骨腫瘍	2
Non-Hodgkin Lymphoma	2	軟部腫瘍	2
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	2
その他のリンパ増殖性疾患	1	脳・脊髄腫瘍	57
組織球症(HLH)	0	その他(診断名も記載すること)	1: 低悪性度胎児型腺がん(肺)
組織球症(LCH)	2		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	0		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：東京都立小児総合医療センター

時期・期間：令和3年9月1日現在

(研修会等の回数は令和2年1月1日～12月31日)

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	3
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	2
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(令和2年1月1日～12月31日)	1

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数：

3

OK

プログラム名		期間	対象者	R1 年度 (人)	R2 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先				プログラムの特徴	
		例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年				自施設 (人)	自施設以外				
								大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)		その他 (人)
1	クリニカル・フェロー(小児血液・腫瘍コース) 「東京医師アカデミー(注)」最上級コース。	3年	医師卒後5年～10年	0	1	2	1	0	0	0	1	日本血液学会の血液専門医取得や専門医に不可欠な臨床研究マインドの養成を目指します。 学会専門医研修カリキュラムに則った研修を実施するほか、大学院の社会人コースへの進学も可能です。
2	サブスペシャリティレジデント(小児血液・腫瘍コース) 「東京医師アカデミー(注)」小児科・新生児科の各専門領域を学ぶコース。	3年	医師卒後5年目以降	0	0	2	1	0	0	1	0	小児科後期専門臨床研修修了者及び同等の者を対象とした、「小児科・新生児科の各領域における専門医受験資格の取得」「同分野における教育指導力の醸成」を目指します。
3	小児がん看護研修	1年	看護師等									小児がん看護に関する専門的な知識及び技能を有する看護師の育成を主な目的として、小児がん患者への対応に関する課題や対応について、様々な職種の方を講師とした講義を28年度より月1回実施しています。自由参加で院外からの受講生も受け入れており、毎回ご参加いただいています。
4												
5												

相談支援センターの体制、相談件数と相談支援内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

#REF!

病院名：東京都立小児総合医療センター

時期・期間：令和3年9月1日現在

職種		常勤／非常勤	専従／専任／兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	ソーシャルワーカー	常勤	専従(8割以上)	1.5	受講	受講	未受講	受講
2	ソーシャルワーカー	常勤	専任(5割以上8割未満)	4.5	受講	受講	未受講	受講
3	ソーシャルワーカー	非常勤	兼任(5割未満)	0.5	受講	受講	未受講	未受講
4	ソーシャルワーカー	非常勤	兼任(5割未満)	0.1	未受講	未受講	未受講	未受講
5	臨床心理士	常勤	専任(5割以上8割未満)	3	受講	受講	未受講	未受講
6	臨床心理士	常勤	専任(5割以上8割未満)	2	受講	受講	未受講	未受講
7	臨床心理士	常勤	専任(5割以上8割未満)	1	未受講	未受講	未受講	未受講
8	臨床心理士	常勤	専任(5割以上8割未満)	1	未受講	未受講	未受講	未受講
9								
10			相談支援センターはソーシャル ワーカーが主体となって運営して おり、相談内容により臨床心理士					
11								
12								
13								
14								
15								

相談支援センターはソーシャルワーカーが主体となって運営しており、相談内容により臨床心理士

● 年間の相談総件数(令和2年1月1日～12月31日)

1,427件

上記1件あたりの平均対応時間

平均

40分

OK

相談件数(令和2年1月1日～12月31日)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	1,427
2	他施設の患者・家族	0
合計		1,427

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	入院中の患者さんの心理的サポート	自施設の患者・家族
2	家族に入院直後に不安や心配ごとをピックアップ	自施設の患者・家族
3	経済的な負担の軽減	自施設の患者・家族
4	教育の機会・保障について	自施設の患者・家族
5	長期フォローアップ	自施設の患者・家族

OK

相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

※成人の拠点病院現況報告書の様式と同様で、コピーペーストが可能です。 病院名: 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	子どもがん相談支援センター					OK	
2	問い合わせ先電話番号	042-312-8117	(内線)					
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施						OK
	予約の要否（必要/不要）	不要						
	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施						
	電話番号	042-312-8117	(内線)					
	予約の要否（必要/不要）	不要						
4	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施						OK
	FAX番号							
	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施						OK
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください							

小児がん患者団体との連携

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和2年1月1日～12月31日

小児がん患者団体との連携（患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等）があれば記載すること。

連携協力している小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名	団体の参加対象者		
1	菜の花の会	小児総合医療センターで抗がん剤治療、造血幹細胞移植を受けた患者及び家族	年に1回定期的に会を開き、交流会、勉強会、疾病や治療に関する質問への説明を行っています。ほか、月に1回相談会を実施。今年は「病院がプラネタリウム」を小児がん診療病棟で開催しました。
2	がんの子どもを守る会	小児がん患者やその家族(菜の花の会の会員の一部が参加)	① がんの子どもを守る会で行っている助成の紹介、他の患者家族会の動向の連絡 ② 全国患者会総会(2018)を「菜の花の会」と共同で、当施設において開催 ③ 東京都小児がん診療連携協議会構成員として参加していただいております
3	小児がんネットワーク MNプロジェクト	小児がん経験者	厚生労働省科研費研究(松本班)において小児がん経験者の実態調査を共同で行っています。
4	STAND UP!!	35歳以下でがん罹患した方(AYA世代がん患者・経験者)	若年性がん患者団体「STAND UP!!」と共同で、AYA世代にあるがん患者に対するアンケート研究を実施しています。
5			
6			
7			
8			
9			
10			

臨床研究の問い合わせ窓口

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和3年9月1日現在

【 臨床試験（治験を除く） 】の問い合わせ窓口

■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					臨床試験(治験を除く)専用の窓口がある				
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
1	窓口の名称		臨床研究支援センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター						
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/rinshoukenkyu_a_index.html						
	電話	代表	042-300-5111	(内線)					
		直通	042-312-8124						
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					臨床試験(治験を除く)専用の窓口がある				
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
2	窓口の名称		臨床研究支援センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター						
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/rinshoukenkyu_b_index.html						
	電話	代表	042-300-5111	(内線)					
		直通	042-312-8124						

【 臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口										
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について						臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある				OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称		臨床研究支援センター							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター							
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/rinshoukenkyu_a_index.html							
	電話	代表	042-300-5111	(内線)						
		直通	042-312-8124							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある				OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称		臨床研究支援センター							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター							
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/rinshoukenkyu_a_index.html							
	電話	代表	042-300-5111	(内線)						
		直通	042-312-8124							
【 治験 】の問い合わせ窓口										
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について						治験専用の窓口がある				OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称		臨床研究支援センター							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター							
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/rinshoukenkyu_a_index.html							
	電話	代表	042-300-5111	(内線)						
		直通	042-312-8124							
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						治験専用の窓口がある				OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称		臨床研究支援センター							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター							
		アドレス	https://www.byouin.metro.tokyo.lg.jp/shouni/section/rinshoukenkyu_b_index.html							
	電話	代表	042-300-5111	(内線)						
		直通	042-312-8124							

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和3年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙14を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

○施設名

・ドナルド・マクドナルド・ハウス ふちゅう

○施設の概要

- ・多摩メディカルキャンパス内医師公舎の1階に立地している。
- ・病院からの距離 約300m

○人員配置

- ・スタッフ 5名
- ・ボランティア 210名（登録者数）

○施設内の設備



＜宿泊室＞
12室 バス・トイレ付き



＜調理スペース＞



＜食事スペース＞



＜プレイスペース＞



＜ランドリー＞

PDCAサイクルについて

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：東京都立小児総合医療センター

時期・期間：令和3年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している
- ②院内誌、チラシ等で広報している
- ③ホームページに掲載している
- ④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

はい (はい／いいえ)
はい (はい／いいえ)
いいえ (はい／いいえ)

OK
OK
OK

- ⑤地域の広報誌等で広報している
- ⑥その他の方法で掲載している
- ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

いいえ (はい／いいえ)
はい (はい／いいえ)

OK
OK

「事業概要」「診療のご案内」等を作成し、関係医療機関に送付している。

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 診療機能及び診療実績	長期フォローアップ外来件数:168件(2020年度) 等	病院全体及び診療科別のバランス・スコアカードを毎年度作成している。「顧客の視点」「財務の視点」「内部プロセスの視点」「学習と成長の視点」の各項目において目標値及びアクションプランを設定しており、診療実績については、「長期フォローアップ外来件数」の他、「新入院患者数」、「院内がん登録件数」等の項目で目標値を設定している。KPIオーナーが中間期及び年度末に達成状況及び取組内容の評価を行い、年度末の評価については次年度の目標及びアクションプランに活用している。これらの達成状況及び取組結果については病院運営会議等で院長等の関係者に報告・評価を行っている。
2 地域連携	連携医療機関向け症例検討会・講演会の開催回数又は来場者数:11回、計1,495人(2020年度)	上記と同じく、バランス・スコアカードの地域連携に関する項目として、「連携医療機関向け症例検討会・講演会の開催回数又は来場者数」の他、「紹介率」、「返送・逆紹介率」等の項目で目標値を設定している。
3 患者満足度の向上	入院患者を対象とした満足度調査 ①「満足」の割合:81.1%、②「満足」+「ほぼ満足」の割合:98.3%	退院時患者アンケートを行い、病棟別等の実績を毎月集計している他、患者の声相談窓口やご意見箱からの意見や苦情も併せて集約して院内委員会で報告を行い、改善策を協議している。ご意見・苦情等への対応結果の一覧表を作成し、院内に掲示している。
4 緩和ケアチーム介入率 等	QIによって示された数値の経年変化を捉えた上での改善	上記及び別添資料による取組に加えて、平成28年度以降は、厚生労働科学研究費補助金による松本班の研究に小児がん拠点病院として参加する形で、当院の小児がん診療に関するQI(Quality Indicator)を算出し、診療上の問題点を明らかにした上で院内会議により改善策を検討するなどして、PDCAサイクルを回すことに役立てております。
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
2	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
3	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
4	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙15を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり (あり／なし)

OK

ファイル形式

PDF

(ワード／ノ太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和3年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、当該医療機関が定める1週間の就業時間のすべてを勤務している者をいいます。ただし、当該医療機関が定める就業時間が32時間に満たない場合は常勤とみなしません。〔医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について〕(平成10年6月26日付け健政発第777号・医薬発第574号、厚生省健康政策局長・医薬安全局長連名通知)の別添「常勤医師等の取扱いについて」を参照)

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

OK

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全対策室					
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー							
		職種	常勤 /非常勤	専従/専任/兼任	医療安全に関する研修の受講状況(注4)		
					受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者養成研修	(一社)医療安全全国共同行動	2020/2/15
2		医師	常勤	兼任(5割未満)	医療安全管理者養成講座	セコム医療システム(株)	2021/3/31
3		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	(公社)東京都看護協会	2019/6/11
4		薬剤師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者養成研修	(一社)医療安全全国共同行動	2019/8/24
5		看護師	常勤	兼任(5割未満)			
6		その他	常勤	専任(5割以上8割未満)			
7		その他	常勤	兼任(5割未満)			
8		その他	常勤	兼任(5割未満)			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

■上記一覧において「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

	職種
例	臨床工学技士(上記リスト6番)
1	事務(上記リスト6番～8番)
2	
3	
4	
5	

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		患者の声相談窓口			
電話	直通 代表				
	042-300-5111	(内線)	3117	3118	3119